

GPS-Academic全国データ 3か年比較「コロナ禍の影響評価」

株式会社ベネッセi-キャリア
まなぶとはたらくをつなぐ研究所

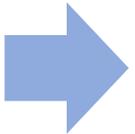
株式会社ベネッセ i-キャリア

	高校3年間	大学1年生
2019年度入学生	通常授業	通常授業
2020年度入学生	通常授業	コロナ禍
2023年度入学生	コロナ禍	コロナ緩和

高校時代の過ごし方や、大学入学時の環境によって、大学に対する期待などが変化するのではないか

- 入学時にコロナ禍の影響を受けなかった学年（2019年度）との比較
- 入学時にコロナ禍の影響を受けた学年（2020年度）との比較
- 高校3か年間すべてコロナ禍だった学年（2023年度）は、それまでの学年との違いはあるか

仮説



GPS-Academic新入生版

	受検期間	集計人数
2019年度入学生	入学前～2019年前期まで	40,009名
2020年度入学生	入学前～2020年前期まで	63,160名
2023年度入学生	入学前～2023年前期まで	110,561名

大学への理解度は年々向上

- 「第一志望」や「教育目標を理解」の比率がアップ
- ただし、「何で大学を理解したか」はコロナ禍の影響あり

友人関係への期待度が高まる一方、留学意向はダウン

- 大学入学時に対面授業を受けられないと、友人関係との不安が高まる
- コロナ禍が留学や英語力に対する志向性を押し下げる
- コロナ禍緩和で、「人との交流」に対する期待度が上昇

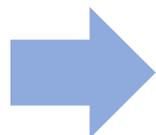
年内入試の拡大に伴い、思考力も上昇

- 年内入試の思考力が上昇
- グループワークなどの経験率は上がるも、必ずしも前向きな学習態度にはつながらず

大学を「とても」納得するためには、カリキュラム理解が重要

- 年度にかかわらず「カリキュラム理解」の影響度がトップ
- 興味関心との一致も重要
- 2023年度ではAP理解も影響度を高める

2023年度入学生に 対する示唆



スコアが同じでも、身に付けている能力や志向性がそれまでと異なる可能性

- 実体験を伴わない「第一志望」「教育目標の理解」
- 大学1年次に友人関係などの「大学での居場所づくり」の重要性
- ロールモデルに触れられなかったからこそ「内向き志向」
- 年内入試学生の基礎学力向上 …and more

★これまでの学生像にとらわれず、学生個々のデータを再確認する必要性+カリキュラム理解促進の重要性

【コロナ禍の影響が大きいと考えられる事項】

1. 大学選択基準の変化

- 大学の情報を得たツール、大学選択に関する経験の変化…など

2. 大学に対する期待度の変化

- 大学入学後に何に力を入れること、不安に感じる事項の変化…など

3. 大学納得度を構成する要素の変化

- 何を理解・満足していることが、納得度につながっているのか…など

【長期的な学生気質の変化によるものと考えられる事項】

1. 思考力の変化

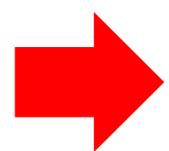
- 特に、入試方式ごとの違いはあるか（「年内入試」拡大の影響）

2. 学びに対する行動・態度の変化

- 学習時間や、授業への向き合い方など

3. 高校までの経験の変化

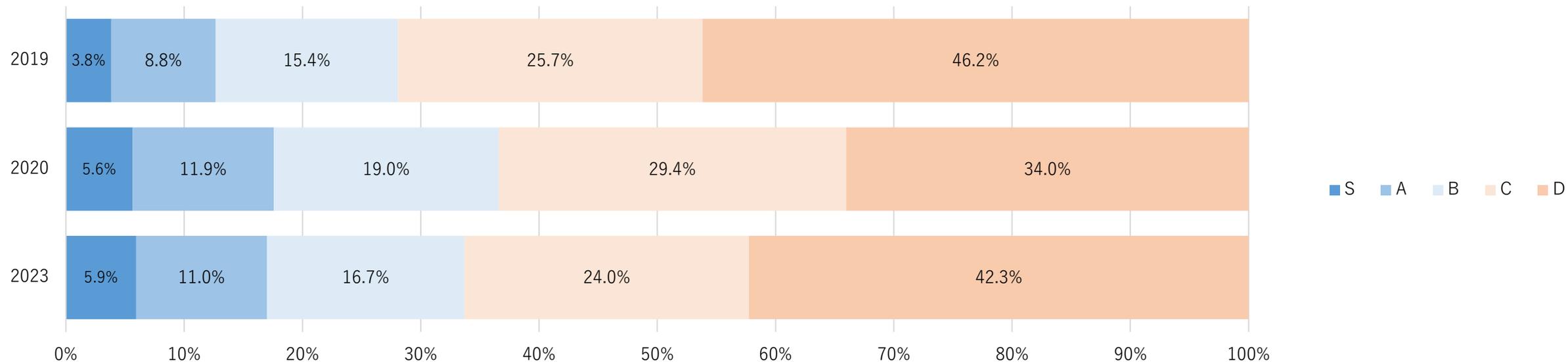
- 一部、コロナ禍の影響を受けるものもあることを想定



今後検証すべき仮説：

「属性」が同じでも、身に付けている資質・能力や志向性がこれまでとは異なっているのではないか
(例：「第一志望」「留学にはいきたくない」「年内入試」などの属性から想起される学生像の変化)

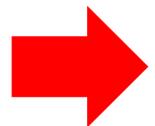
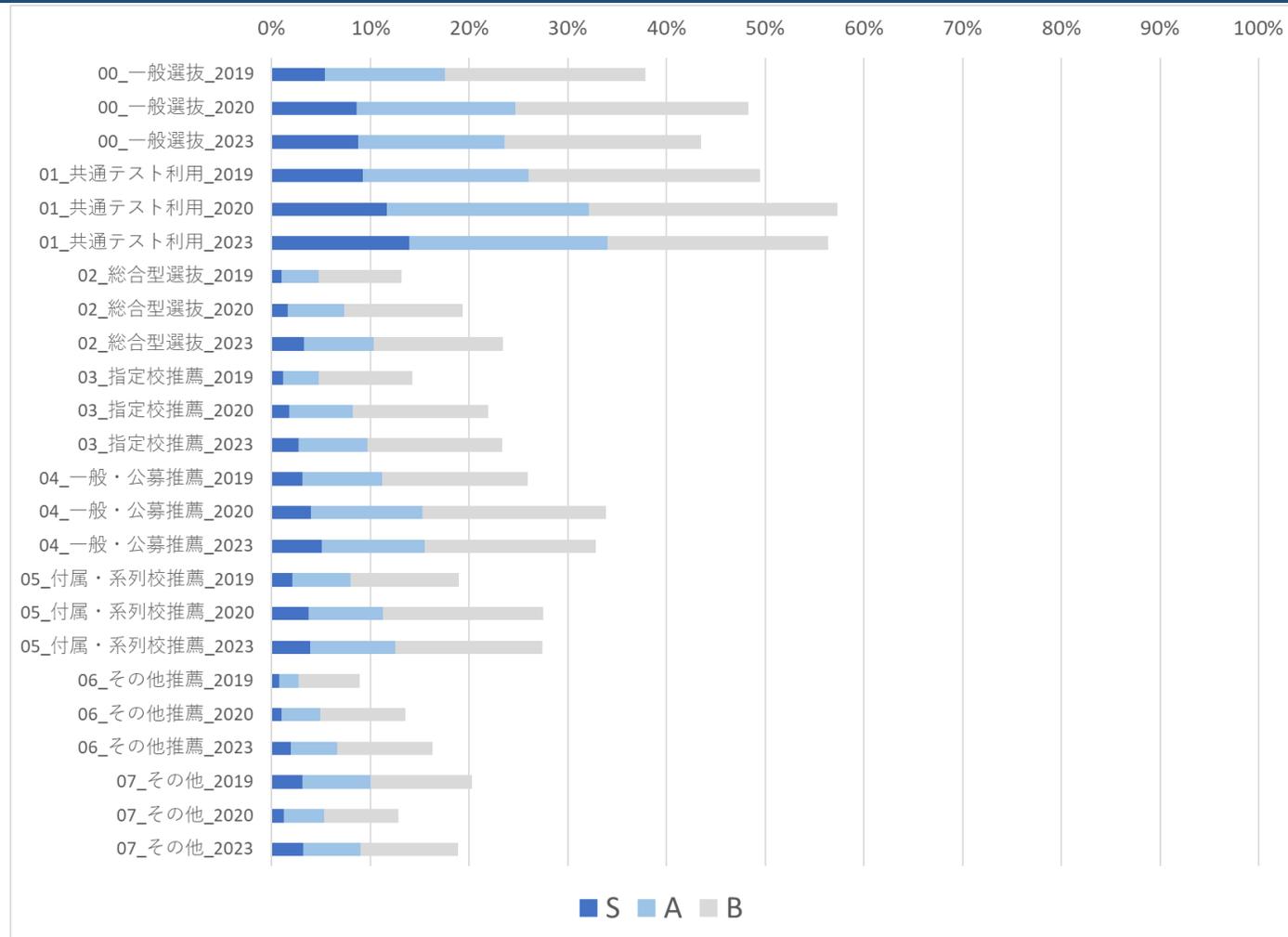
思考力総合段階値の変化



2019→2020で若干の上昇は見られるが、2020→2023ではほぼ変化なし

→【検証すべき観点】2020～2023の年度別思考力に変動がないか

→【仮説】2020年度生は「極端な現役志向」だったため、入試直前まで受験対策をしていたのではないか
(2020年度生は「最後のセンター試験受験生」：2021年度より「大学入学共通テスト」)

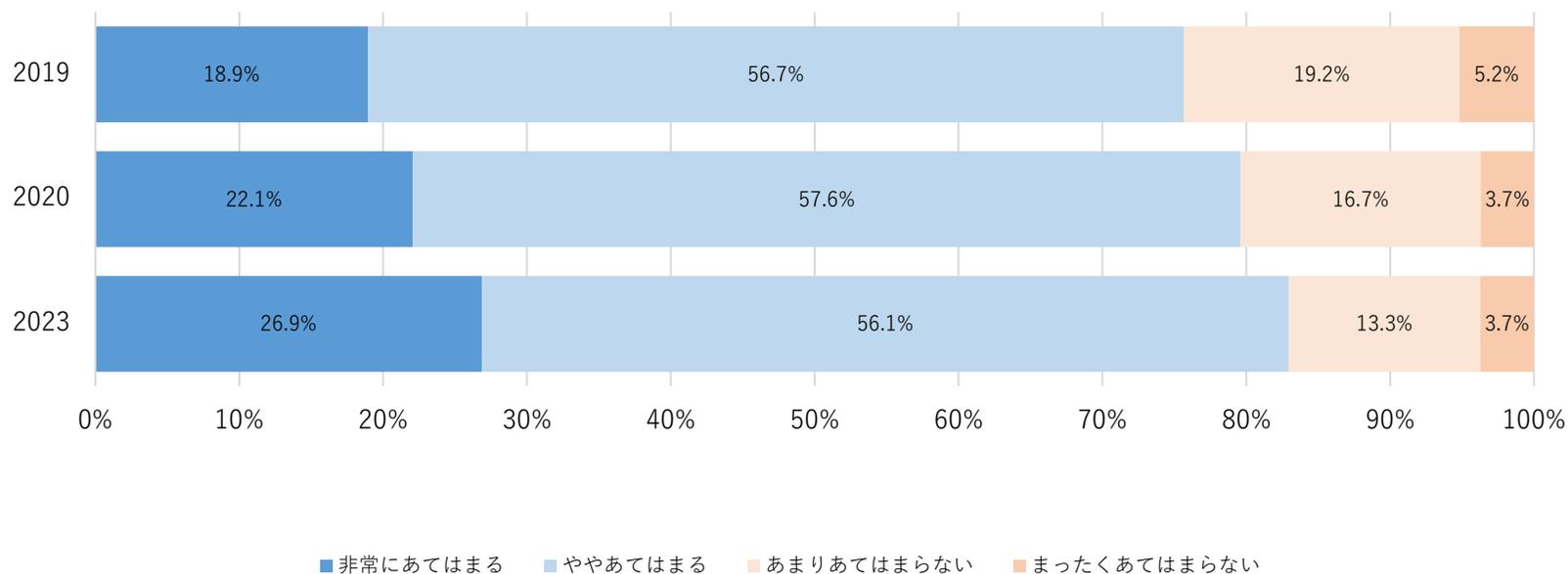


年内入試より一般選抜のほうが思考力が高いが、年内入試の思考力も高まる傾向

→【検証すべき観点】 年内入試で思考力の高い学生のプロフィールや、学修行動…など

→【仮説】 年内入試の人気の高まるのに伴い、従来であれば一般選抜まで残っていた高い学力層が年内入試に移行しているのではないか

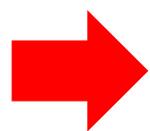
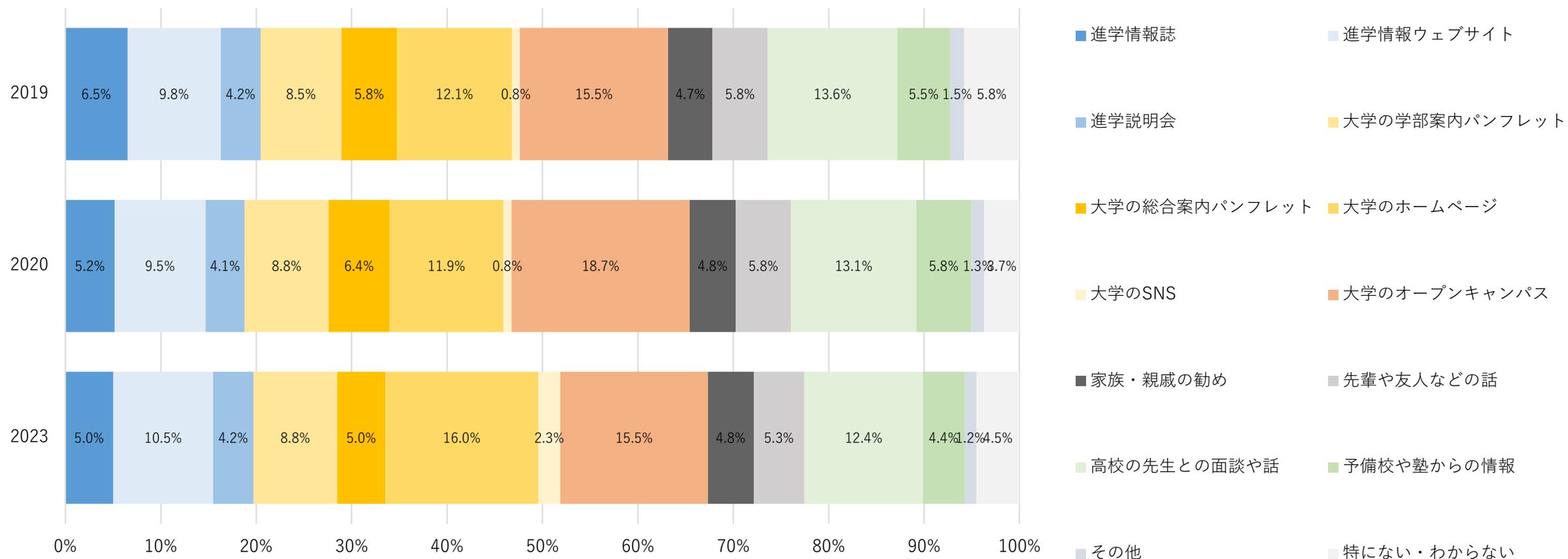
所属する学部・学科の入学時に期待する能力、意欲、態度など
(どういう学生に入学してもらいたい) 知っている



APを理解している学生の比率が上昇傾向

→【検証すべき観点】 APを理解した場面やツール、APを理解したことによる学習行動の変化の有無、など

→【仮説】 年内入試での入学生の拡大に伴い、受験を通じてAPを理解する学生が増えているのではないかと

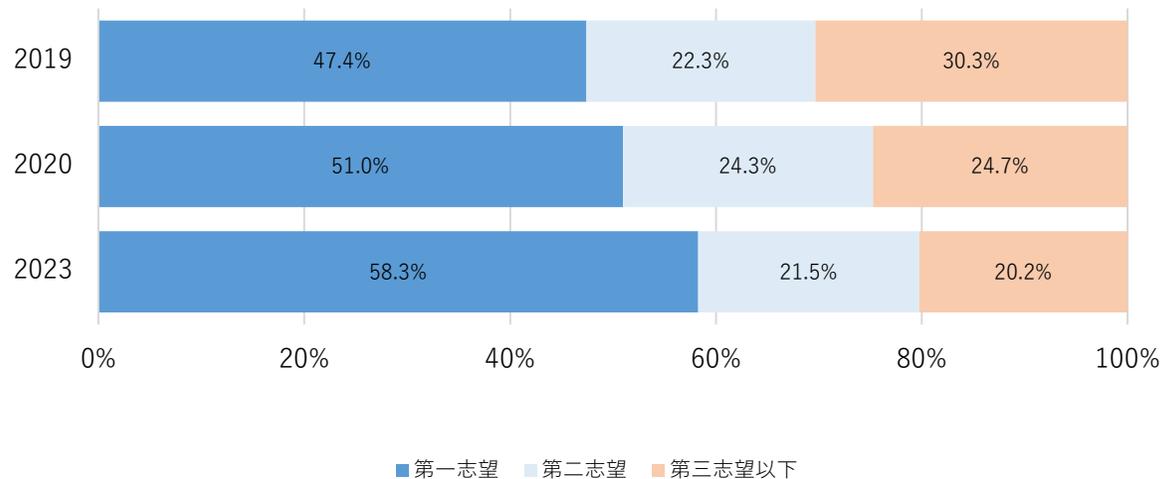


2023年度生がもっとも役立った情報源として、「オープンキャンパス」が減少し、「ホームページ」が拡大

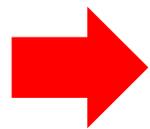
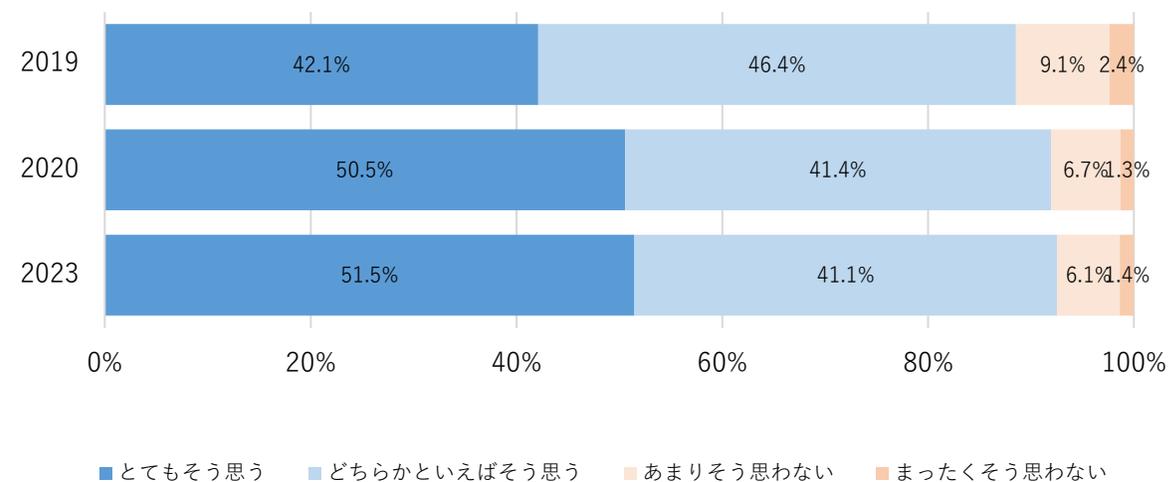
→【検証すべき観点】情報源の中で、具体的にどんなコンテンツが選択の決め手になったのか…など

→【仮説】2023年度新入生は、入学前後で、大学に対する印象や評価が変わっている可能性があるのではないかと推察（コロナ禍の影響で、入学前に一度もキャンパスに来ることができずに受験を決定している可能性）

大学志望度



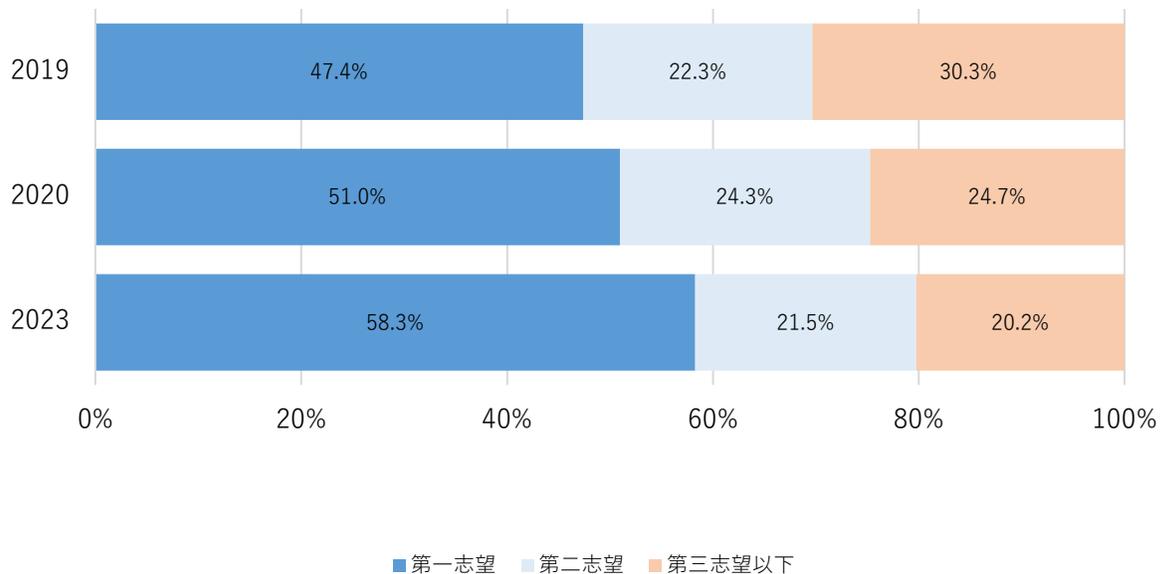
大学納得度



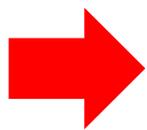
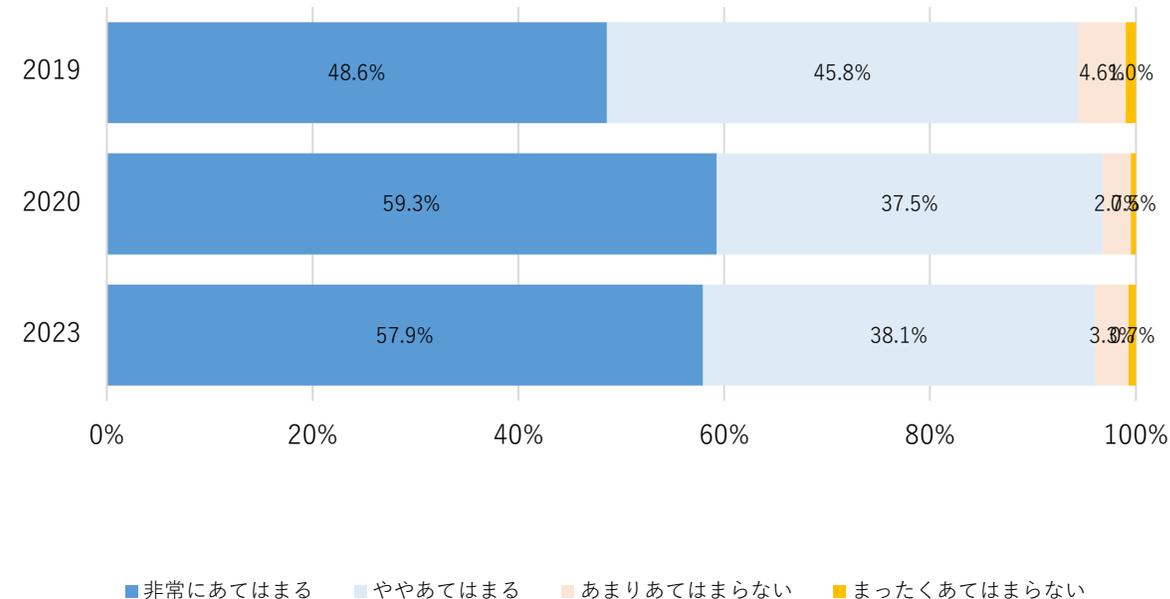
「第一志望」の比率は上昇するも、「大学納得度」には変化なし

- 【検証すべき観点】 2023年度の「第一志望」はどのような学生か／進学先を何で決めたか…など
- 【仮説】 2023年度新生は、大学に対する理解度が不十分なまま進学先を決めていたのではないかと推測（例：オープンキャンパスに満足に参加できていない、など）

大学志望度



あなたが通う大学で、
自分の将来に必要な学びを得ることができると思う



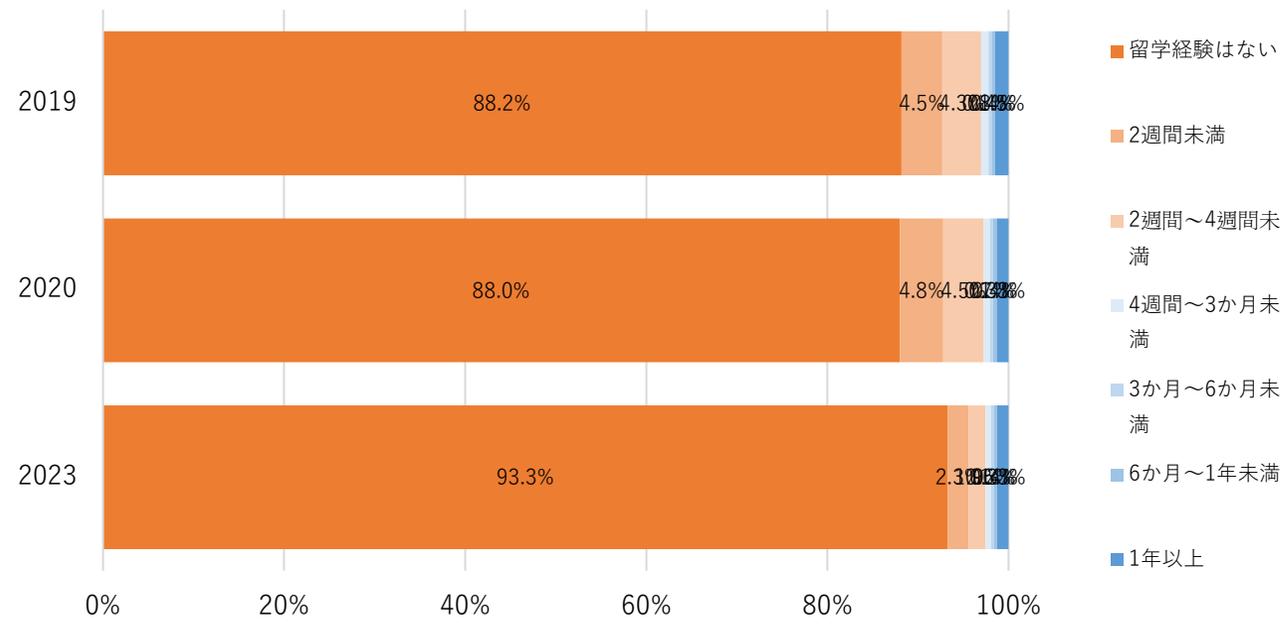
「第一志望」の比率は上昇するも、「必要な学びを得られる」には変化なし

→【検証すべき観点】 2023年度の「第一志望」はどのような学生か／希望進路に変化はないか…など

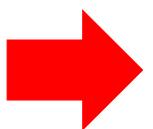
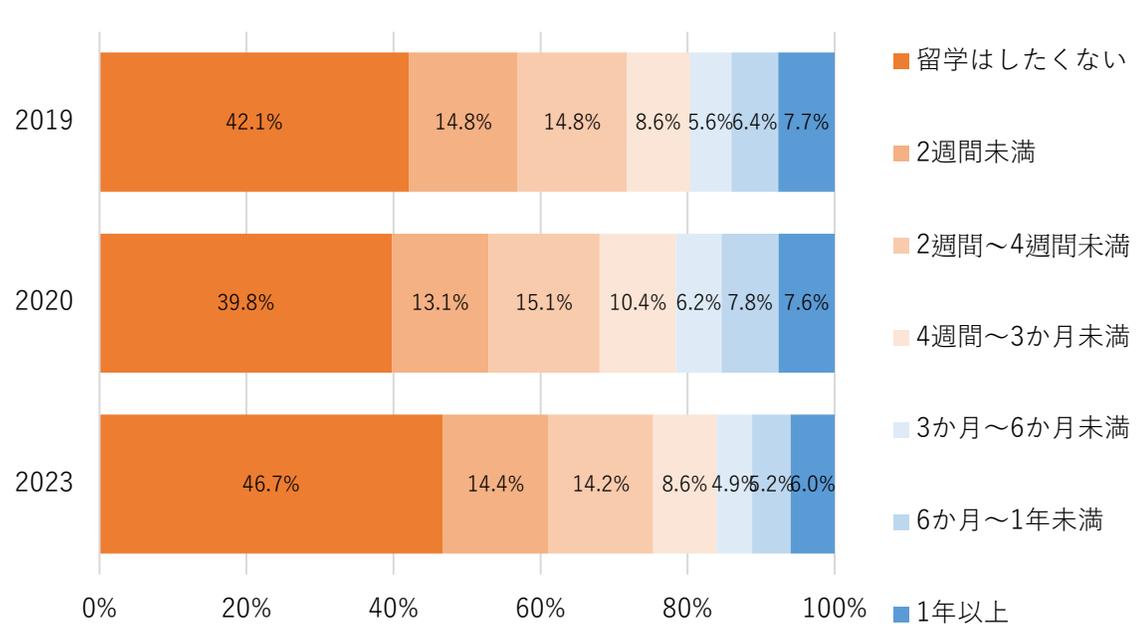
→【仮説】 2023年度新生は、自分の将来と大学の学びを結び付けて考える機会が限られていたのではないか

(例：オープンキャンパスの制限などにより、大学や学部の内容を幅広く理解し比較する機会が減少、など)

留学経験



留学意向

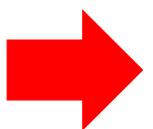
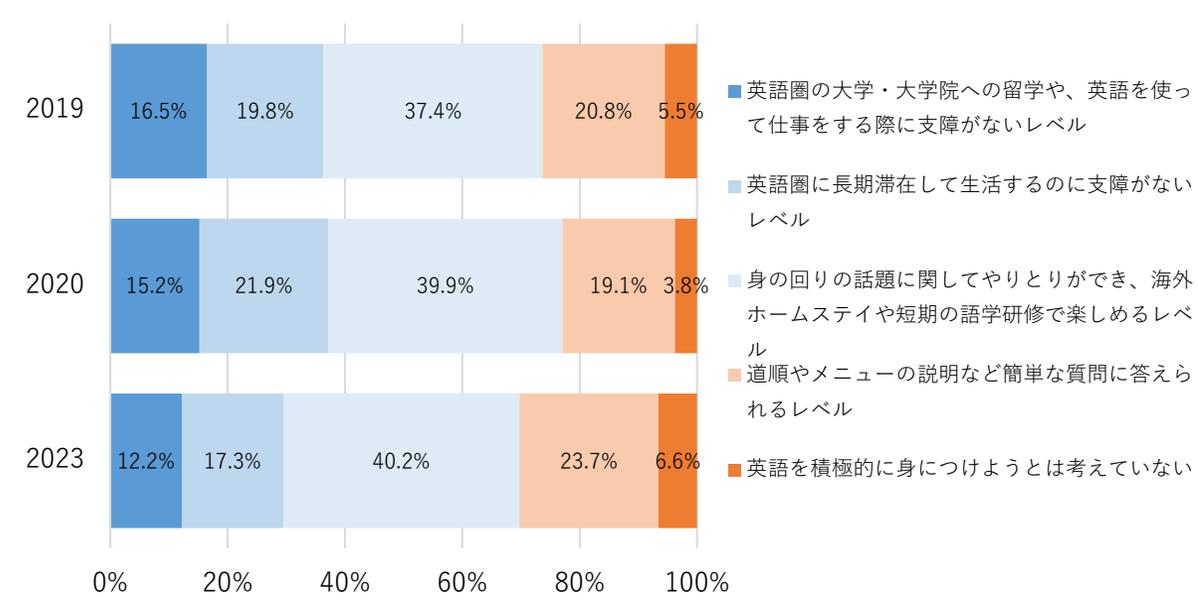
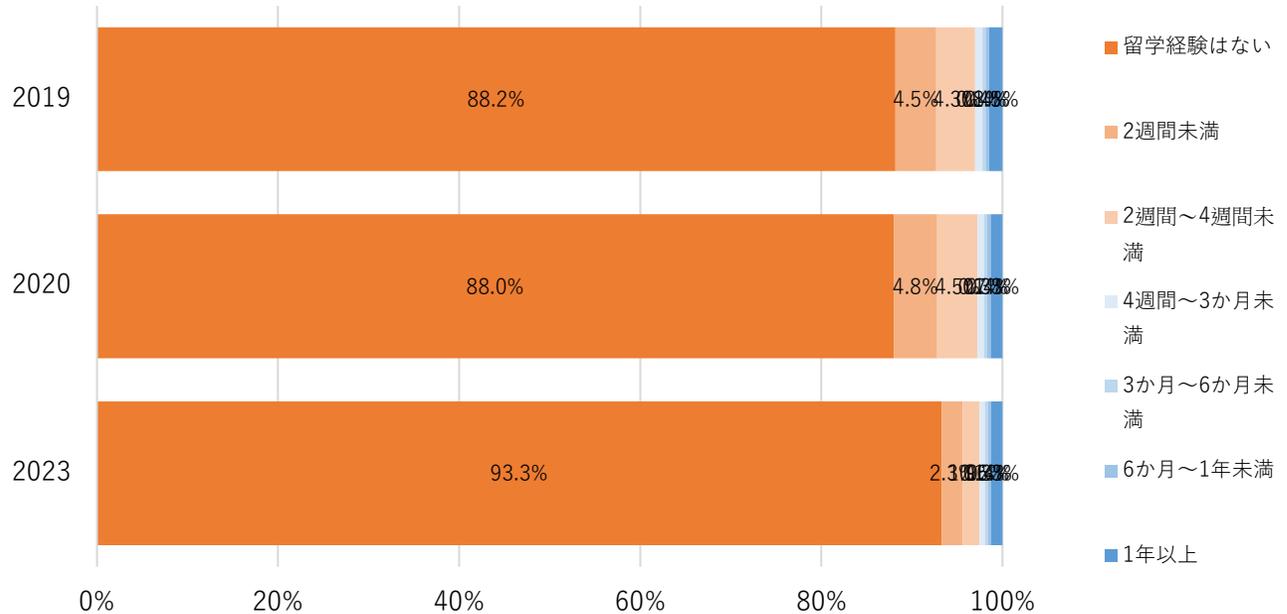


「留学経験はない」の比率が上昇し、「留学意向」もダウン

- 【検証すべき観点】 いわゆる「内向き志向」による変化かどうか（コロナ禍による一時的な現象かどうか）
- 【仮説】 高校時代に「ロールモデル」が不足していたことが要因ではないか（初年次の働きかけで改善する可能性）

留学経験

身に付けたい英語力

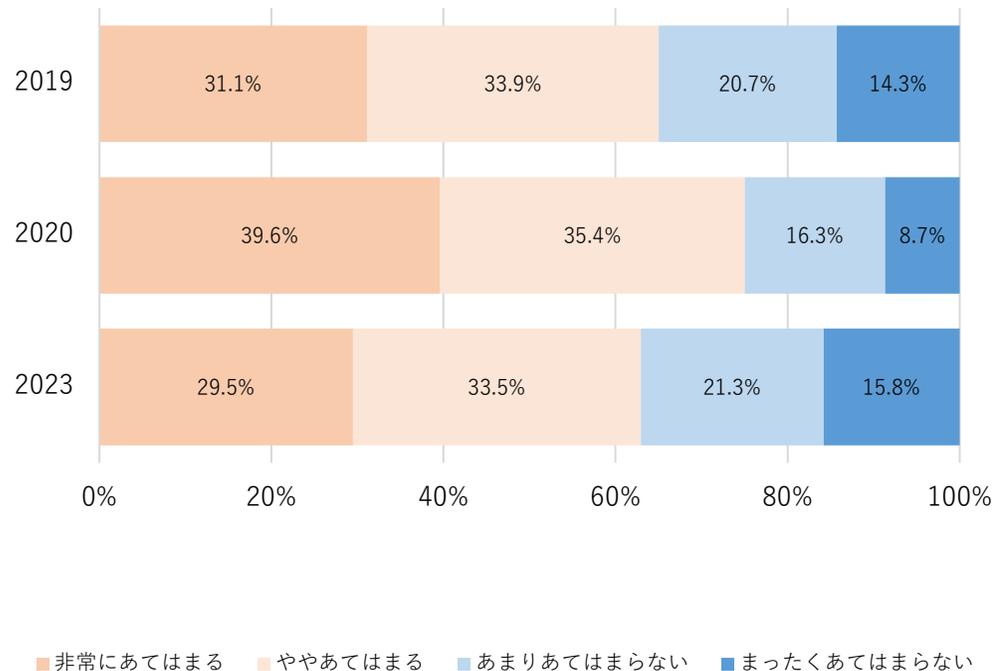


「留学経験はない」の比率が上昇し、「身につけたい英語のレベル」もダウン

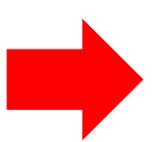
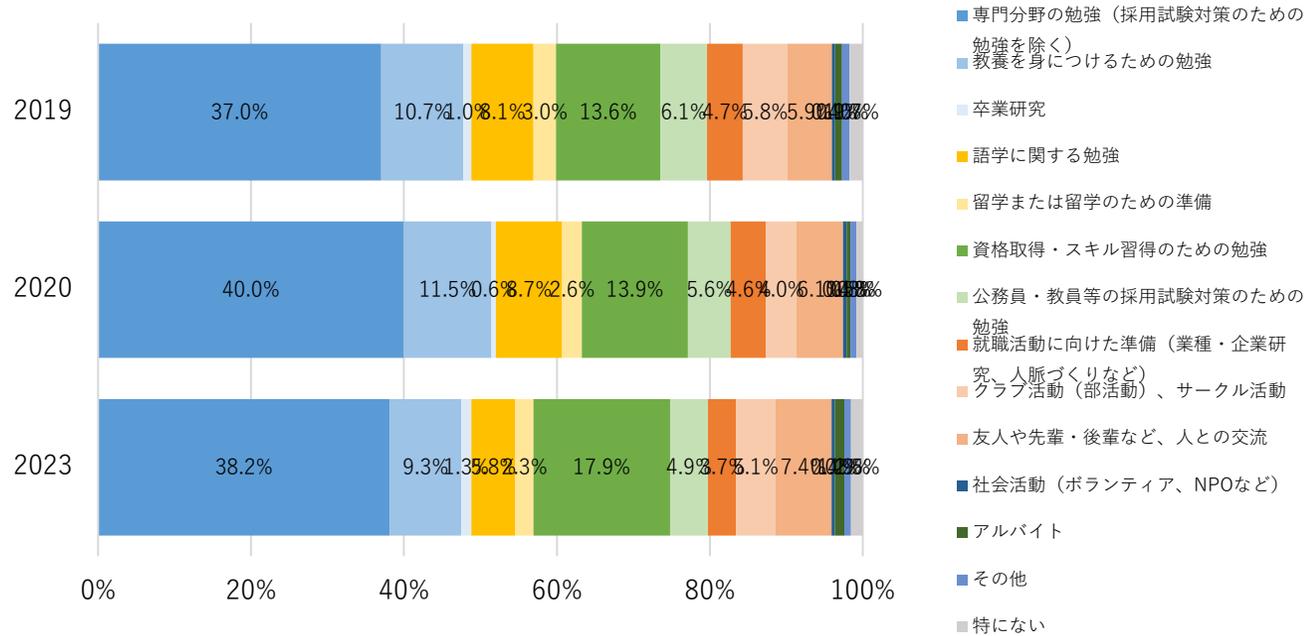
- 【検証すべき観点】 いわゆる「内向き志向」による変化かどうか（コロナ禍による一時的な現象かどうか）
- 【仮説】 高校時代に「ロールモデル」が不足していたことが要因ではないか（初年次の働きかけで改善する可能性）

「大学生活への不安」と「大学生活で力を入れたいこと」の変化

友人ができるか不安がある



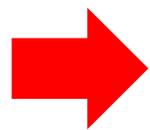
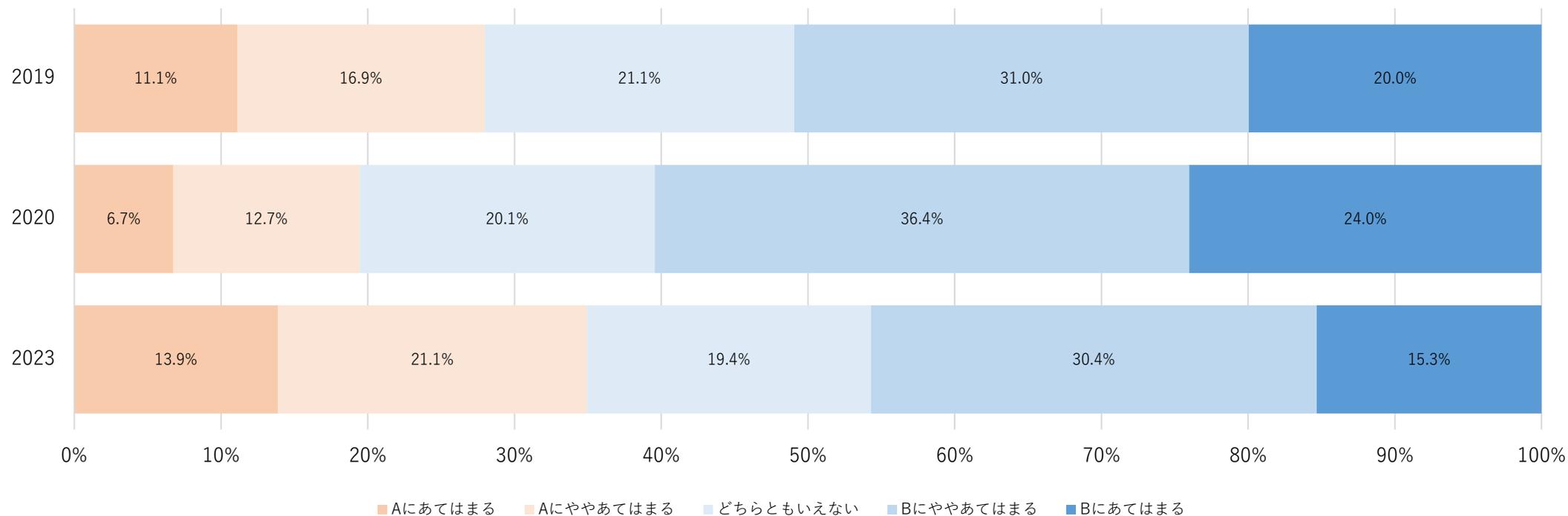
力を入れたいこと1位



コロナ禍で「友人ができるか不安」が拡大するも、2023年度で落ち着き

- 【検証すべき観点】 2020年度生の不安感の影響範囲／2023年度生が前期で友人関係が築けたか…など
- 【仮説】 2023年度生は、円滑な友人関係が築けることで、大学生活全般に好影響が出るのではないか

- A. あまり興味がなくとも、単位を楽に取れる授業がよい
- B. 単位を取るのが難しくても、自分の興味のある授業がよい



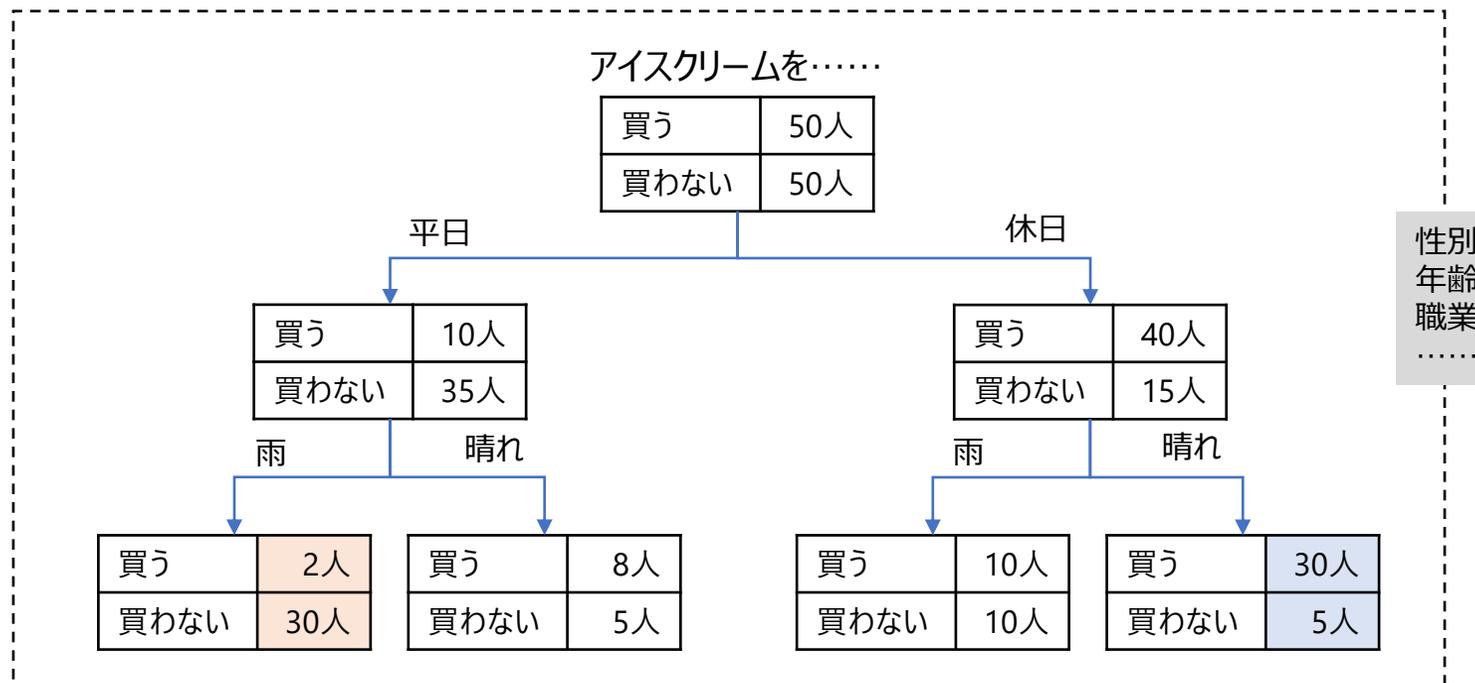
2020年度生で「楽単志向」が弱まるものの、2023年度生で「楽単志向」が強まる

→【検証すべき観点】 2023年度生の履修科目の変化（過年度との比較）…など

→【仮説】 2023年度生は、学修よりも大学生生活の充実を優先したがつているのではないか

（第一志望で、教育目標を理解していたとしても、「コスパ」を高めて友人との活動などに時間をあてる）

目的変数に対して、どの説明変数を使うと最も効果的に分類できるかを、機械学習で探索する方法。

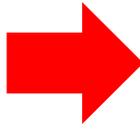
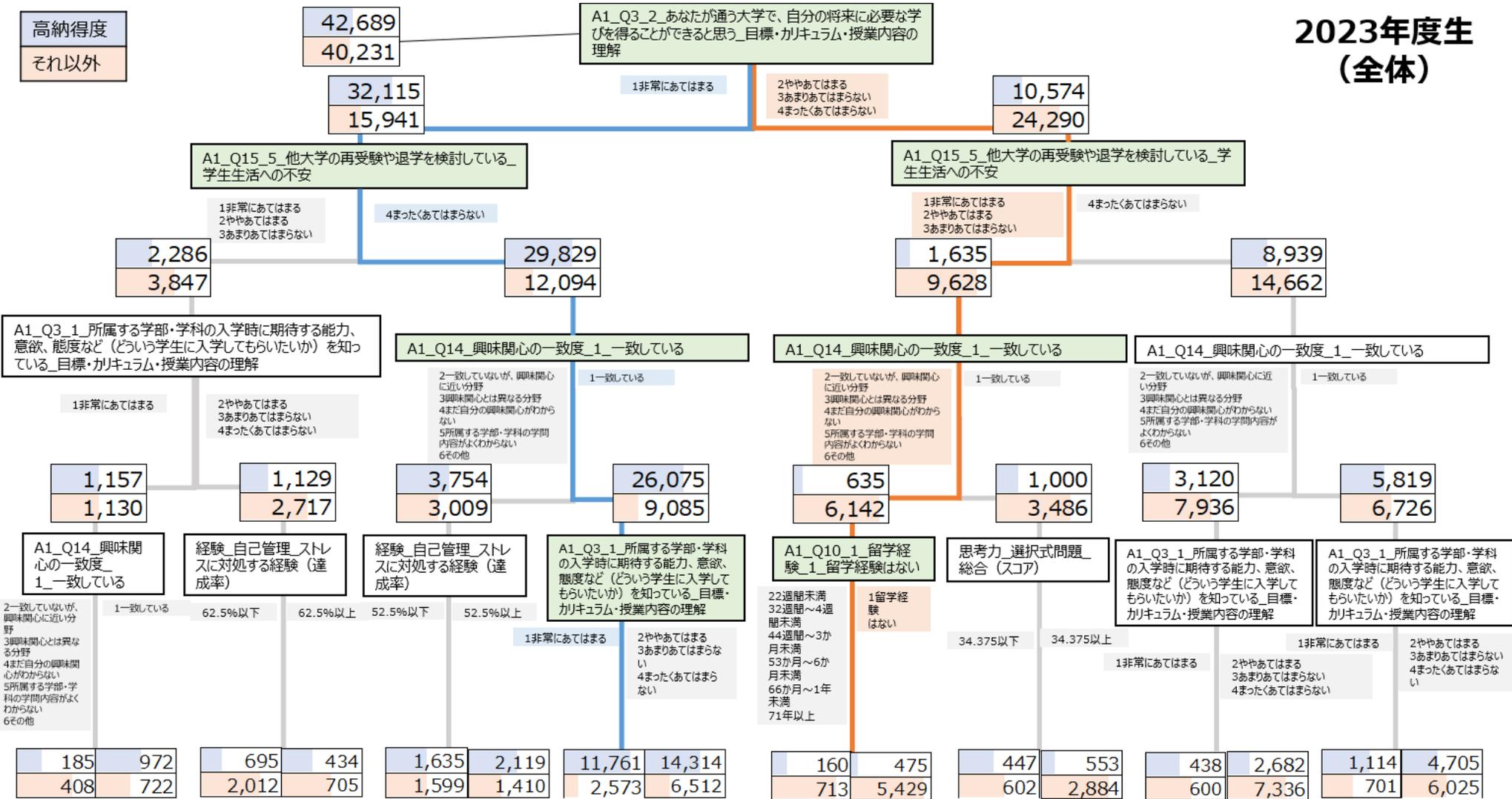


★検証したいこと★

第一志望が増えても大学納得度が高まらない中で、「高い納得度」をもつ学生とはどのような特徴があるのか

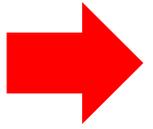
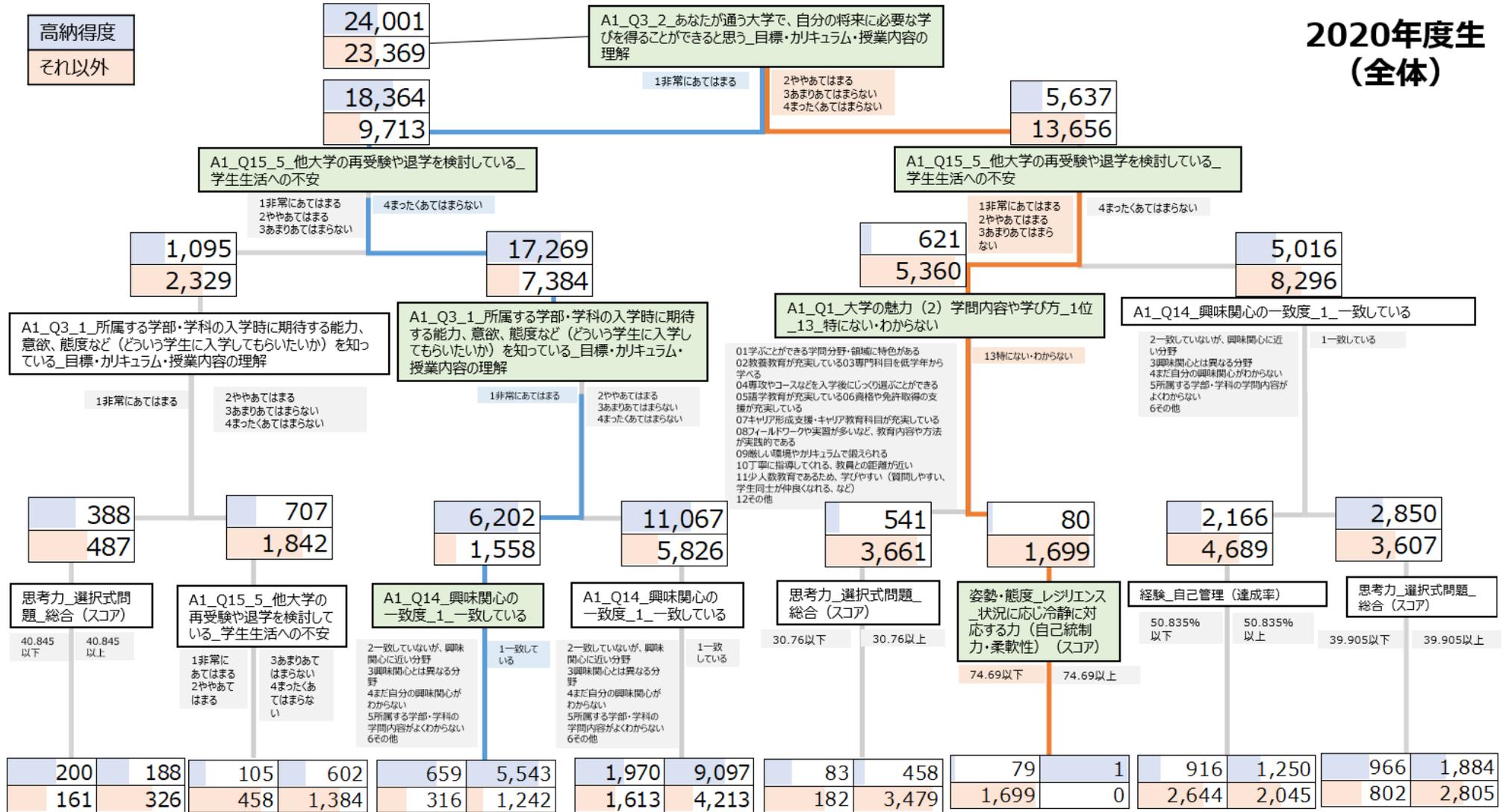
目的変数	「あなたは、あなたが通う大学に入学してよかったと思いますか。（大学納得度）」に対して、「とてもそう思う」と答えたか（以降「高納得度」）、それ以外の回答か（以降「それ以外」）
説明変数	GPS-Academicで計測した227項目 ※順序尺度ではない項目（例：大学の魅力）はダミー変数化して処理 ※「大学納得度」と相関の高い「大学志望度」は除外

2023年度生
(全体)



「高納得度の学生」= ① 将来必要な学びを得られると強く思う → ② 退学の不安がまったくない → ③ 興味関心が一致 → ④ APをしっかりと理解

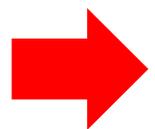
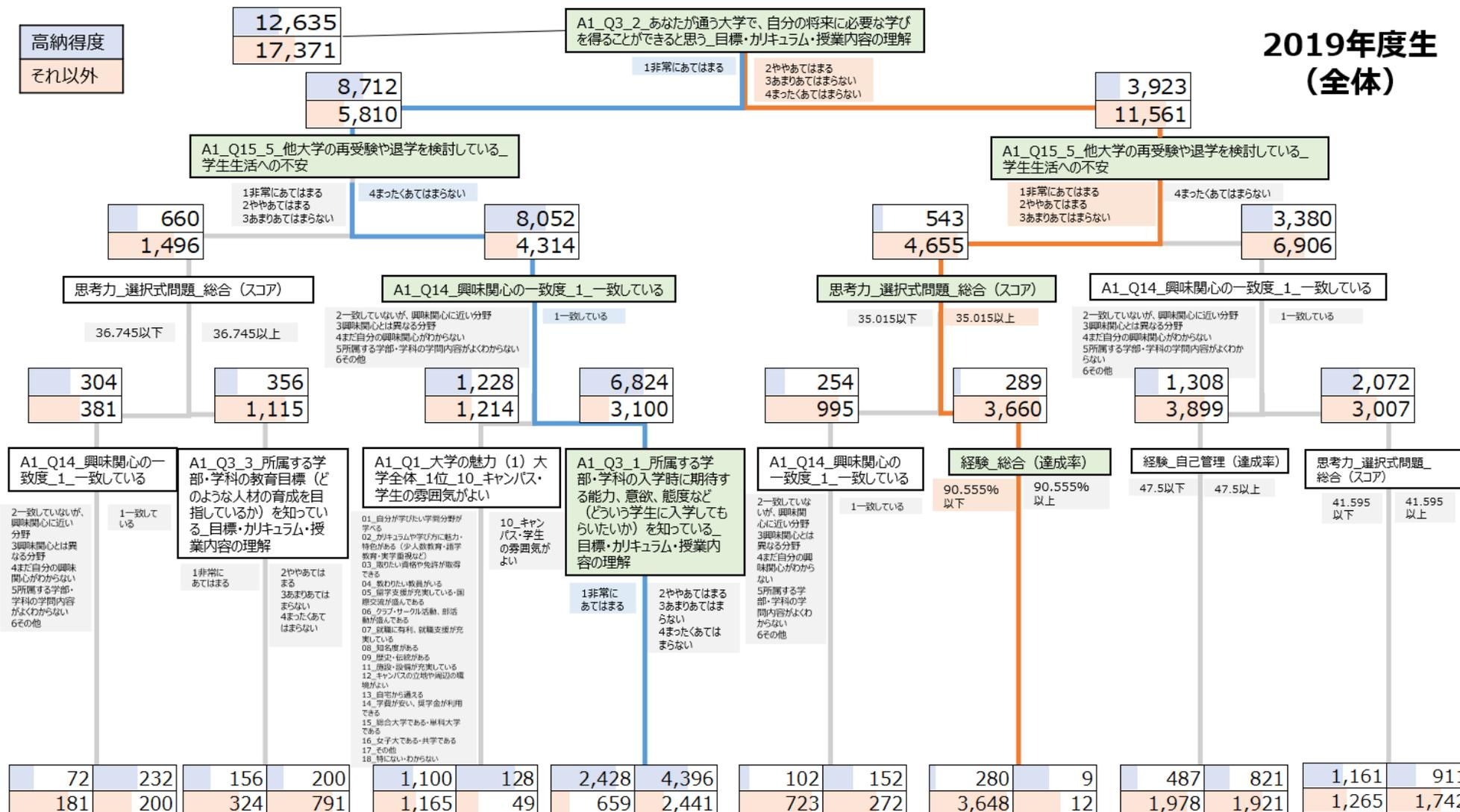
2020年度生
(全体)



「高納得度の学生」= ① 将来必要な学びを得られると強く思う → ② 退学の不安がまったくない → ③ APをしっかり理解 → ④ 興味関心が一致

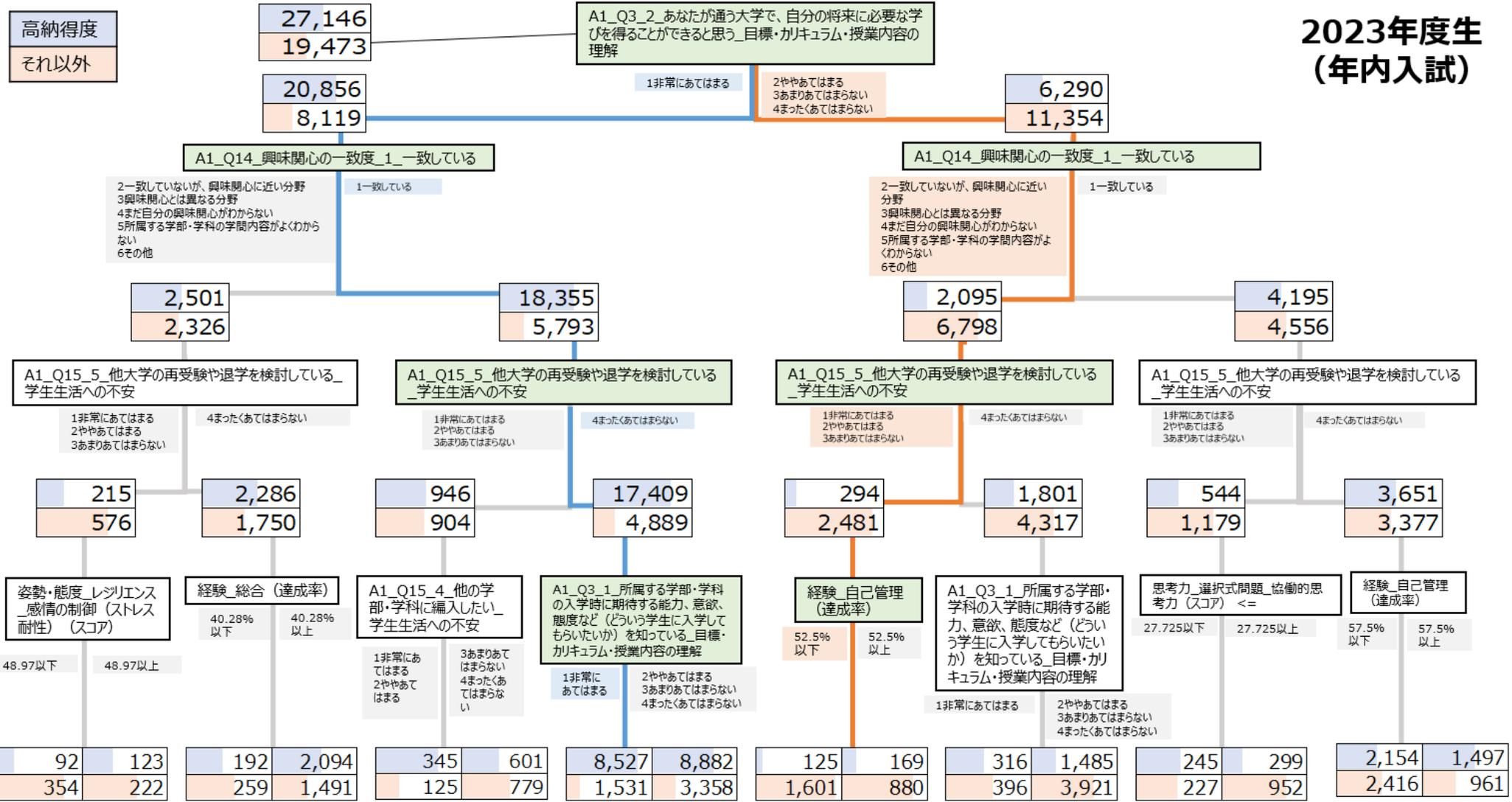
「高納得度」の学生とは③2019年度・全体

2019年度生
(全体)



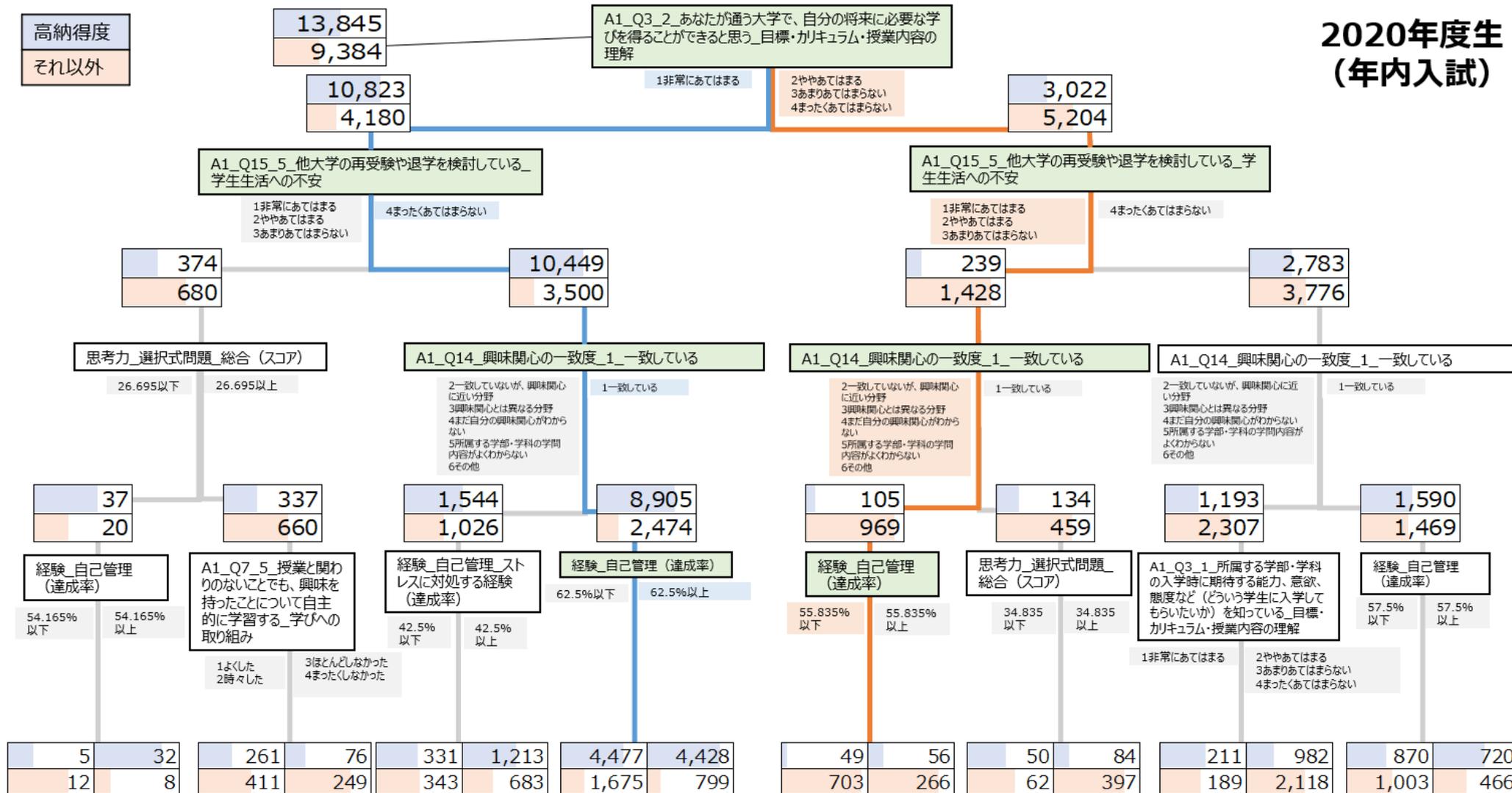
「高納得度の学生」= ① 将来必要な学びを得られると強く思う → ② 退学の不安がまったくない → ③ 興味関心が一致 → ④ APをしっかり理解

2023年度生
(年内入試)



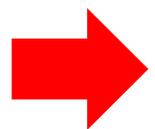
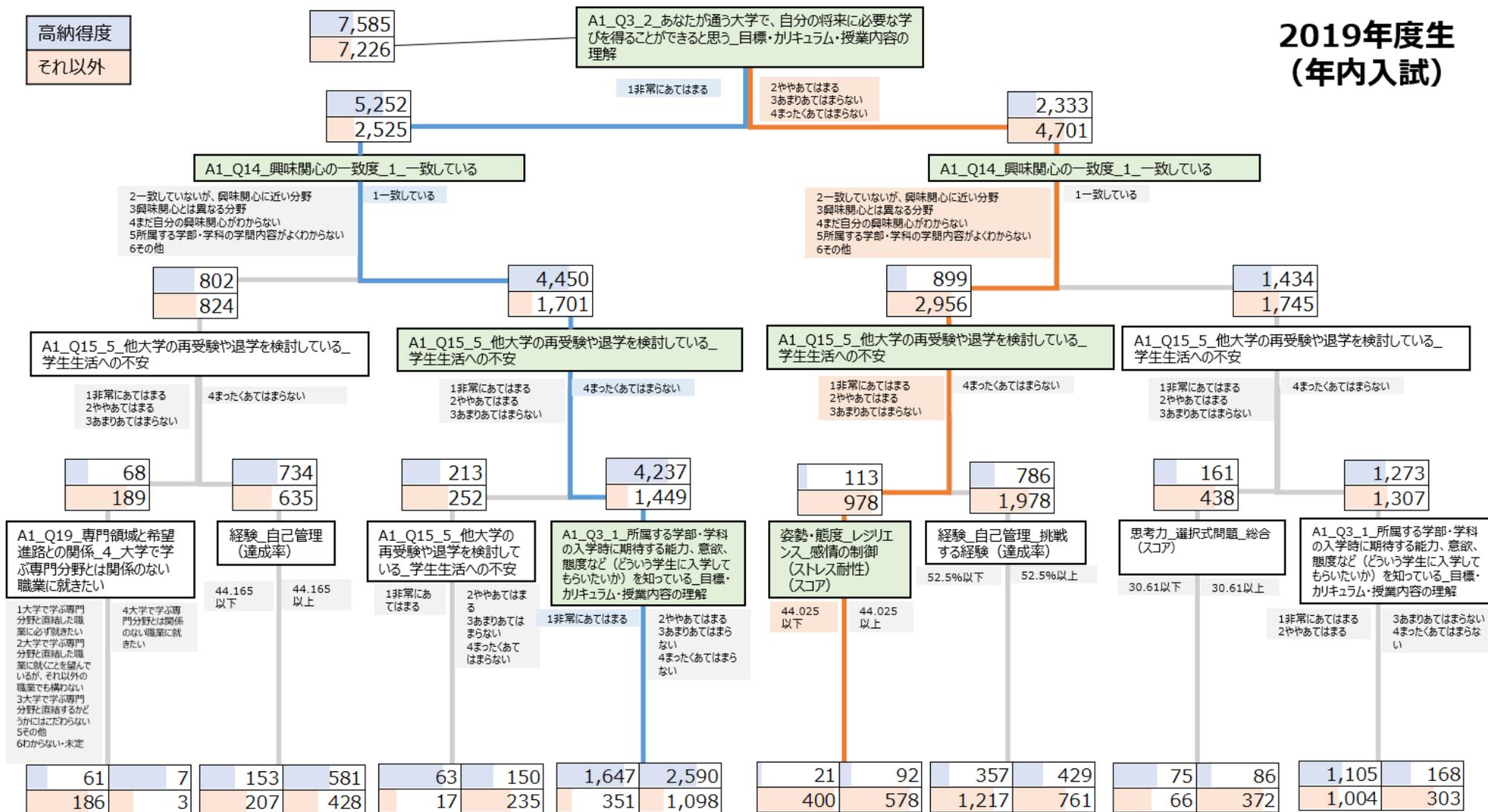
➡ **「高納得度の学生」= ① 将来必要な学びを得られると強く思う→② 興味関心が一致→③ 退学の不安がまったくない→④ APをしっかり理解**

2020年度生
(年内入試)



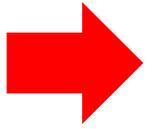
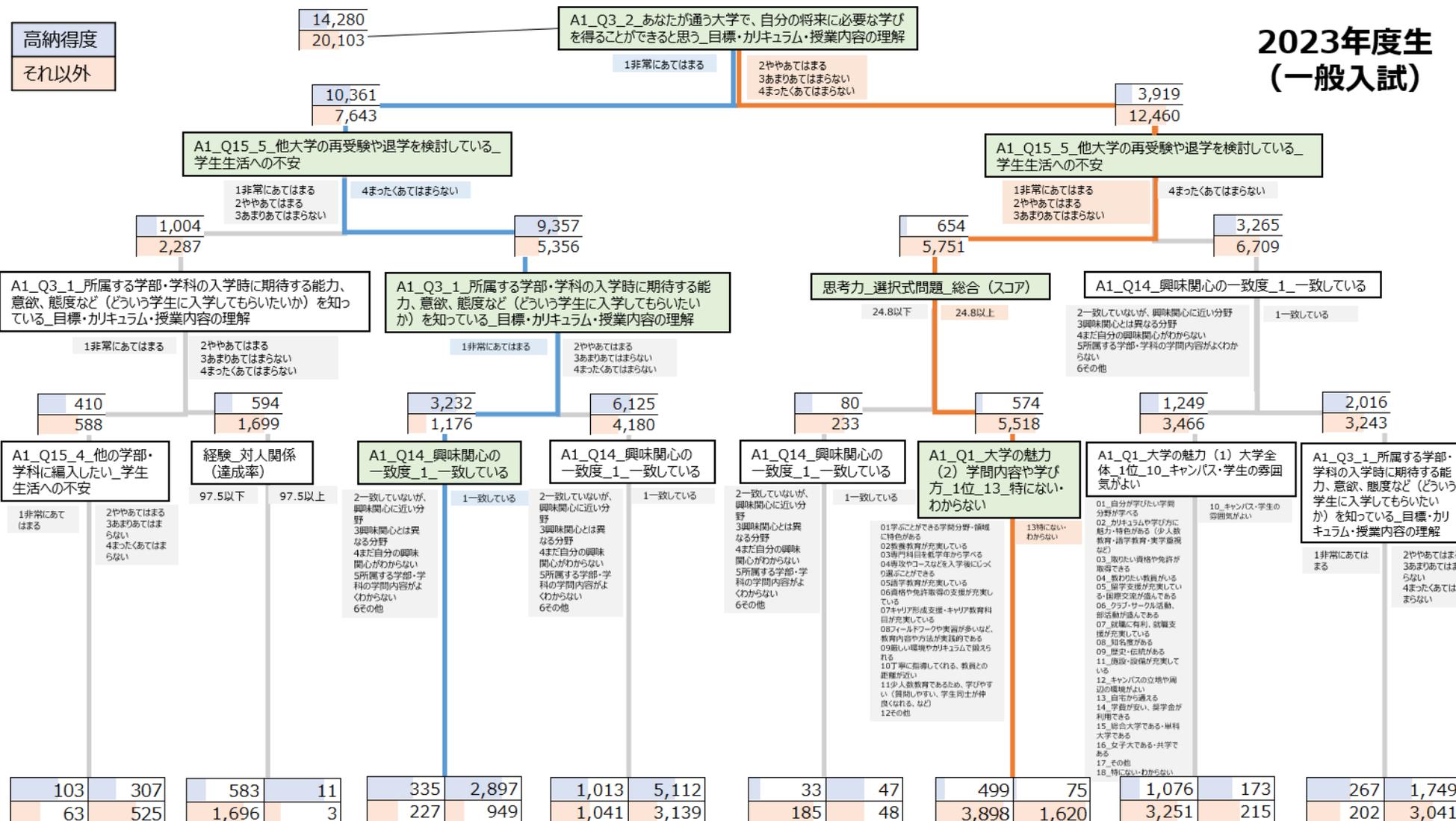
➡ 「高納得度の学生」= ① 将来必要な学びを得られると強く思う→② 退学の不安がまったくない
→③ 興味関心が一致→④ 自己管理の経験を多くしている

2019年度生
(年内入試)



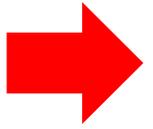
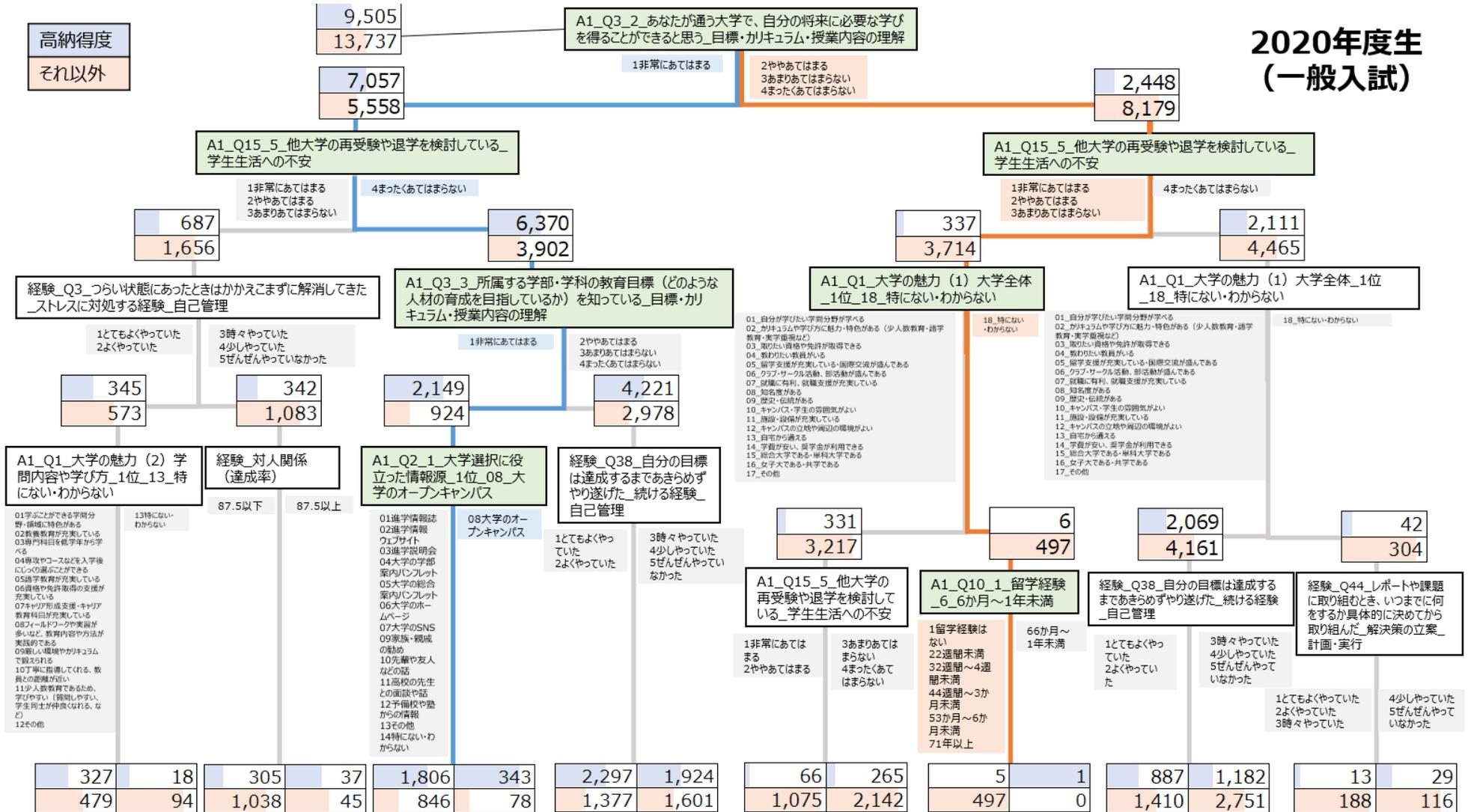
「高納得度の学生」= ①将来必要な学びを得られると強く思う→②興味関心が一致→③退学への不安がまったくない→④APをしっかり理解

2023年度生
(一般入試)



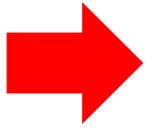
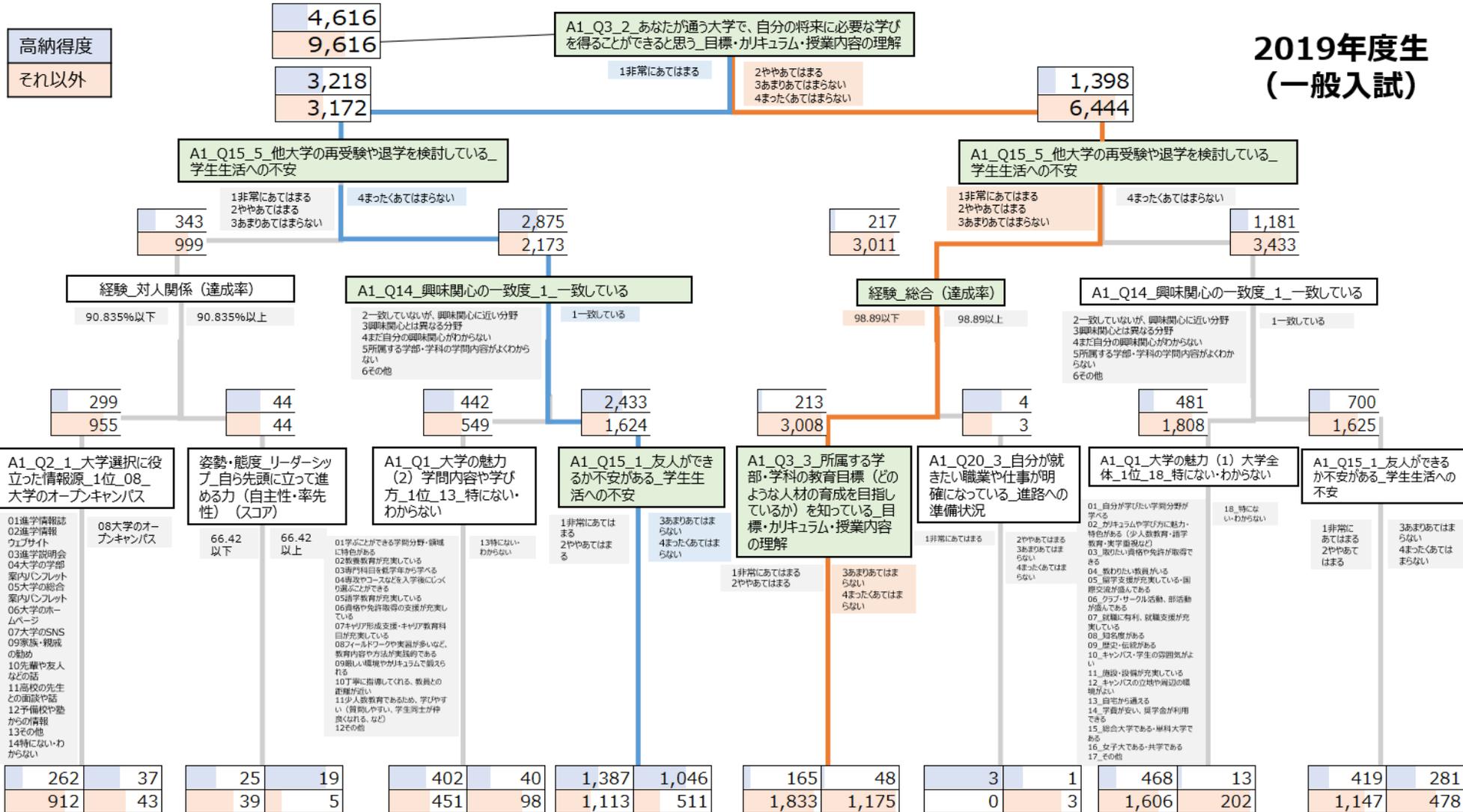
「高納得度の学生」= ① 将来必要な学びを得られると強く思う → ② 退学の不安がまったくない → ③ APをしっかり理解 → ④ 興味関心が一致

2020年度生
(一般入試)



**「高納得度の学生」= ① 将来必要な学びを得られると強く思う→② 退学の不安がまったくない
→③ APをしっかり理解→④ オープンキャンパスを活用**

2019年度生
(一般入試)



「高納得度の学生」= ① 将来必要な学びを得られると強く思う → ② 退学の不安がまったくない → ③ 興味関心が一致 → ④ 友人ができるかへの不安が少ない

1. 学生が「入学してよかった」と強く思えるための基本構造は、年度や入試方式でも変化しない

- 「自分の将来に必要な学びが得られる」と「強く思える」★これが最重要
- 「他大学の再受験や退学」を「まったく考えない」
- 「興味関心」が「一致している」
- 「アドミッション・ポリシー」を「深く理解」

2. 2020年度生は、コロナ禍においても自己管理ができたり、大学に直接接触できた学生の納得度が高い

- 特に年内入試の学生は、自分で進路を決めたり学習方法を工夫するなどの「自己管理の経験」をしっかりできていることが、大学納得度につながっている
- 一般入試の学生は、オープンキャンパスを活用していたり、大学の魅力を自分なりに確認できていることが、大学納得度につながっている

3. 「納得度が低い」学生は、大学研究が不足している可能性

- 基本的な構造は「1」の裏返し（例：「将来に必要な学びを得られる」と「強く」思っていない）
- 大学の魅力を「特にない・わからない」と回答する学生が、納得度が高まらない傾向
- 高校時代の経験量が少ない層や、レジリエンスの低い層で、納得度が高まらない傾向
- 思考力が高いからと言って、必ずしも納得度が高いとは限らない（「思考力が高い層」のプロフィールを詳細に確認する必要性）

まなぶ と はたらく を つなぐ 研究所

✓ 所在地

- 〒163-0432 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビルディング32階
株式会社ベネッセ i-キャリア内

✓ TEL

- 03-5320-1299（土曜・日曜・祝日・年末年始を除く9:30-17:30）

✓ Mail

- cag000144@benesse-i-career.co.jp

✓ ホームページ

- <https://www.benesse-i-career.co.jp/lab0.html>（公開レポートなどもこちら）